

第16次共同研究 報告書の活用方法について

本報告書には、学校・家庭・地域社会における指定都市の子どもたちの姿（実態）や思い（意識）を知ることができるデータがそろっています。この報告書の作成に携わった全国の担当者から、様々な場で活用していただくための「オススメ活用方法」を紹介させていただきます。

<タイトル>

指定都市の子どもたちの姿や思いを探る

- 生活や学習に関する継続調査・過去における調査結果との比較を通して -

<目次>

- 第1章 「家庭・地域社会における生活」
- 第2章 「家庭・地域社会における学習」
- 第3章 「学校における生活」
- 第4章 「学校における学習」
- 第5章 特集「第6次共同研究調査結果との比較を通して」

【第16次の報告書は、...】

- ・ 小学校4年生、6年生、中学校2年生を対象（合計20,400名以上）に、全47問での実態及び意識調査を行いました。
- ・ 第14次、第15次との経年比較を行い、子どもたちの姿や思いの変化の様子を探ってみました。
- ・ 第6次共同研究との比較調査を実施し、「子どものやる気」「子どもの耐性」「子どもの人間関係」の三つの視点を参考に、30年前の子どもたちと、今を生きる子どもたちの姿や思いの変容を明らかにしました。
- ・ 今後の教育活動の在り方や、学校・家庭・地域社会における取組の方向性について提言しています。

このような活用ができます！

<教育委員会・教育研究所・教育センターでは...>

各都市で独自に行っている調査研究との比較センターでの教育課程研修会、研究主任研修会等の研修資料として各都市の教育プラン（取組の重点目標）等に反映教育研究の先行研究・基礎データとして活用

<学校では...>

校内研修の資料として
学校説明会や保護者会、家庭教育学級での話題提供の資料として
学校・研究会等の団体で独自アンケート調査を実施する際に、本調査項目を参考に

<地域では...>

市民講座や講演、町内会、老人クラブ等、市民からの要請に基づく出前講座、座談会（テーマ例：「子どもの姿や思いを探る」）の資料として



共同研究を広く知ってもらうためには...

HPやセンターだより、所報等で集計結果・活用法について広報（シリーズで掲載）
教育研究発表会の分科会での研究報告
センター連絡会・主事会等で他課の指導主事に研究報告、広報と活用について依頼
校園長会等において研究報告、学校での実践や研究調査への活用を促す
2年次の調査集計結果を市内全学校・園に送付（例：e-mailなどを利用して）